

ちいさなこえ

牧野正夫

よくはれた、あきのひのことです。
うさぎのこどもが、みちばたにしゃがんで、なにかをみつめています。
「なんてかわいいのかしら」
うさぎのこどもは、ほほえみしました。
みちのすみっこで、いちごいろのちいさなおはながさいています。
こうさぎは、おもいました。
「わたしのおみみにかざったら、きっと、みんなが、『かわいい』って、ほめてくれるわ」
こうさぎは、おはなに、てをのばしました。
そのときです。
『わたしをつむのはやめて。おねがい』
こうさぎのおおきなおみみに、ちいさなこえがきこえました。
「おはなさんが、しゃべった？」
こうさぎは、びっくりしました。
おはなが、おはなしするはずがありません。
「きっと、そらみみだわ」
だけど、こうさぎは、おはなをつむのをやめました。
「がんばってさいているのに、みみかざりにしたら、おはなさんが、かわいそう」
こうさぎは、おはなさんに「またね」といって、おうちにかえりました。
やがてあきがおわると、まちに、つめたいきたかぜがふきはじめました。
おつかいのかえりに、こうさぎは、みちばたで、しおれたくさをみつけました。
「あのおはなが、さいていたばしょだわ」
「おはなさん、かれちゃったのね」
こうさぎは、かなしくなりました。
すると、こうさぎのおみみに、また、ちいさなこえがきこえてきました。
『らいねんも、げんきいっぱい、さきたいな』
しおれたくさは、ひとつぶの、ちいさなたねをのこしていました。
「そうだ、このたねを、そだてよう」
こうさぎは、たねをハンカチにやさしくつつむと、おうちにもってかえりました。
はるになると、こうさぎは、たねをおうちのおにわにまきました。
やがて、たねから、ふたばがめぶきました。
こうさぎは、まいにちおみずをあげて、たいせつにそだてました。
そして、おだやかなあきのひのこと。

「わあい、おはなが、さいたよ」

こうさぎのおうちのおにわに、いちごいろの、かわいいおはながさきました。

『うさぎさんのおかげで、わたしはさくことができました。もう。まんぞくです。』

『さあ、わたしをつみとってください』

おはなは、ちいさなこえで、こうさぎにいいました。

「そんなことしないよ」

「わたし、ちゃんとおせわするから、これからもまいとし、かわいいおはなをさかせてね」

『ああ、うれしい。うさぎさん、ありがとう』

おはなのちいさなこえは、こうさぎのところにひろがって、あざやかにかがやきました。